繪本通寳志　六七八

繪本通寶志巻之八目録

徑山寺雪中之景
黄昏之象
高照耀雪中寶山

畫山水木石法

夫山水天地万物始畫人骨筋也畫先岩木為専一山石多作礬頭亦為凌面大斧小斧文理雨点皴法各圖あり 要見幽遠而氣雄崢嶸峻貌險岨秀潤有木樛枝梃幹屈節皴皮細裂多瑞分數萬状陰陽向背筍條曲垂梅枝老嫩或古松垂枝衆木平圓遠者疎平
○水湯々而若活爲驚濤怒浪流曲折以至輕波細瀯著浪使人有浩然江湖思凡山水林木皆江

畫冊中を見て可畫神意をうがつ者也

南風景有多樓觀舟船水村漁市風總畫山水須按四時景候（春夏秋冬七十二候）分其遠近三遠法○象西湖金山焦山廬山赤壁瀟湘八景等圖本躰而作千變万化象深山大谷雲霞烟雾出沒或蔽樹木峯峦隱顯皆山中草木氣（雲山川氣也地氣上為雲○霞赤氣也雲日氣相薄○朝霞者日始出赤[illegible]氣也雲霞煙烟○夏月奇峯多或山形或人形會獸作狀）山無雲若無春花山無氣無神無神則不高其外風雨月雪各水墨曲作其象茅舍斷橋危棧真山間景瀑布閑也飛泉勢烈山陰寺棟木隱樓閣遠人橋屋筆勢強飛鴈

風帆遠幽漁舟葦蘆（春夏秋冬）川岸水村芦間蓬船或橋為群或連或別何水邊景色也或浮雲宛若奇峰山體貌烟霞為縹緲難寫狀用金碧輝暎亦人家間氣人烟也雪中無人煙是法若能別辨則知山水之彷彿也觀其先看氣象後辨清濁總不限山水看諸畫不可一途而取古人命意各有道蓋古人筆法圓熟用意精到初若率易愈玩愈佳今人雖極工緻一覽而意盡矣今以古書法圖之以辨其事第一法曰丈山尺樹寸馬豆人也（山大木馬大豆）

寫鉀袋後編八
山水第一法丈山尺樹寸馬豆人
第二法 一筆人形 遠形非無目如無
遠人無目 豆人形
其形行走止騎座言語負荷風雨或
僧俗老若貴賤形象雖寫皆不分明形也
騎
寫鉀袋後編八

山水三遠法

三 遠樹無枝 緑變而黒

四 遠山無皴 隱々而如眉

五 遠水無波 高与雲齊

法

遠き木ハ枝葉まじらず緑の内に枝あり
遠き山ハかすミに隱レ谷あきらかならず
雲霞より出るかくちする山のあり
遠き水ハ見えず波みえず まゆへ雲ひとし

遠き山ハ
形眉の如
水墨の如

中にも遠きハ
氣象遠ま
遠きにあひの
くま

遠水ハ
皇の曲

附 水蕩々而活
象逆風揚濤

廣遠かんと欲せば其瀾を断よ因て則遠し 近水ハ瀾あり波あり
遠き水ハ波も瀾もなし 蕩てとろとろとうすくくまどるなり 水ハ
準あり物と畔平にして岸をく降に畫べからず 遠水ハ青汁の曲ごとくする也

雨点章
麻皮皴渇
龍岩
雲章
第十二十三法
樹看頂巓
木看岸基

第十四十五法
尖峭者峯
平夷者嶺
峯
崖
山巓
嶺
巖
麻皮皴かすり
元信用之
第十六十七法
峭壁者崖
懸石者岩
第十八十九法
有穴者岫
形圓者巒
山ニ穴あるを岫といふ
形とがらず丸き山といふなり

第二十 両山夾路嵠　嵠ハ峡なり山の間の谷

廿一 両山夾水澗　谷川なり

廿二法 水注川者溪　溪ハ溜湫集り川に入

廿三 泉通者谷路

廿四 下土山者坡

廿五 極目平者坂

高然暉遠山
凡草山水の達人也

澗
路
溪

分賓主之朝揖

多則乱少則漫

不多不少要知遠近

列群峰之威儀

遠山不得連近山

遠水不得連近水

遠近能分則有風情

斷岸乱提小橋可置
有路處人行無處林木

山腰回抱
寺觀可安

岸崖古木露根而藤纏

こゝに見る所は崖に川岸おちて古木の根あらはれ藤かづらのまとひしげりたり

臨流石屏嵌
空而有木痕

石屏　屏風と立たるおもかげのやうなり
瀬川などのはげしき瀬の流の上へ大なる岩のそびへたつ
やうに空などのありてもののたてる気色あるやうといふなり

凡畫林木 遠則疎平 近則高密

とほきハうすくかすかなりうるハしくしてみすとおもふうちに雲をよ木のかたちをかくありちかきところハまとくふかくさうよたかく畫べし

遠きハ形跡平

有葉者枝柔 無葉者枝硬

木葉あるも繁なるも木の稍のかきやうさしそうつかずちるじるをさすのしへあり冬月の繁なき死木也

老樹垂枝　古木節多而半死　死木堕衣

木の枝垂へさしのびたるハ木の常なり年経たるゆへ枝降る心あり
枯果たる木ハ自皮すくるなり秋冬衰葉おちたるハ死木にあらず

松皮似鱗

此図ハ老木なり枝降ゆへ上へ紫と正面に見たる木の皮ハ
竪にさけ又横にわれたる大木にある木ハ皮とさく　皴
かくち龍のうろこに似たるとりふんあり

杉じやくの木の皮ハ松皮のごとく
さくるなり

四時山水

春景

霧消烟籠

樹木隠々

遠水揉藍

山色推青

早春の山ハ色黒し
かすミにて樹木を
かくれをるていあり
ときさあいとのべ
うろおく色淡き
ていなり
山の色すくなき
いろとおしなれ
ていあり

夏景
綠山
奇峰
林木蔽天
綠蕪平坂
奇峰
同
穿雲瀑布
近水幽亭
亭

秋景 秋の山ハ黄

水天一色

蕭々疎木

山ハ黄ばミ色あさきを見へ
みる邊ハそらのおもて
なりくもりとすがら
ある木立をさびしく
水ハ空とひとし色を
みる一川なる
かくさなり

雁横烟寒

水辺かゝとたなびきわたりくもしうろたへさ
かりのつらなりゆけていとりなり

芦島沙汀

海邊ゆきどころ川
かりの渉りて
あしの枯風ハ
ふかれておとよ
をとていとまりく
とりなり

冬景
即地為雪老樵負薪漁舟傍岸
木淺沙平凍雲黯淡酒旗孤村

經山寺
雪中景

暮景
山銜落日一帆御江濱人行急半掩柴扉

山東
画人名
高然暉
雪中
重山